

世界に誇る日本庭園 新潟の庭園は文化の表看板

いがた庭園文化交流協会
副会長・博士(工学) 土沼 隆雄

近年、外国人観光客は、東京・京都ばかりでなく地方のまちにも多く訪れるようになりました。そして、自然の豊かさを体感しながら奥深い日本文化を理解しようとする行動の背景には言葉で表現できない「何か」を感じとろうとしている熱い思いがあるのではないのでしょうか。私たち日本人も足元の庭園文化に潜む作者の思いに近寄り、日本の精神とその形をあらためて見つめ直すことが求められていると思います。

越後／新潟の庭園

新潟地方の庭園は、豪農と呼ばれる地主の暮らしと深い関わりを持つてきた。地主たちは江戸時代から米の収穫高を増やすために積極的に新田開発を進め、稲作経済で多くの富を得た。その財力によって広大な土地を所有し、建物を敷地の中央に構えて周辺に大庭園をつくった。この庭園の特徴と

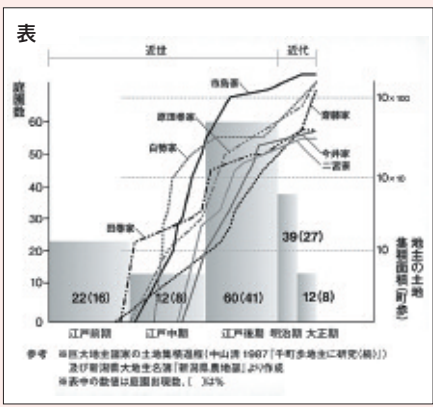
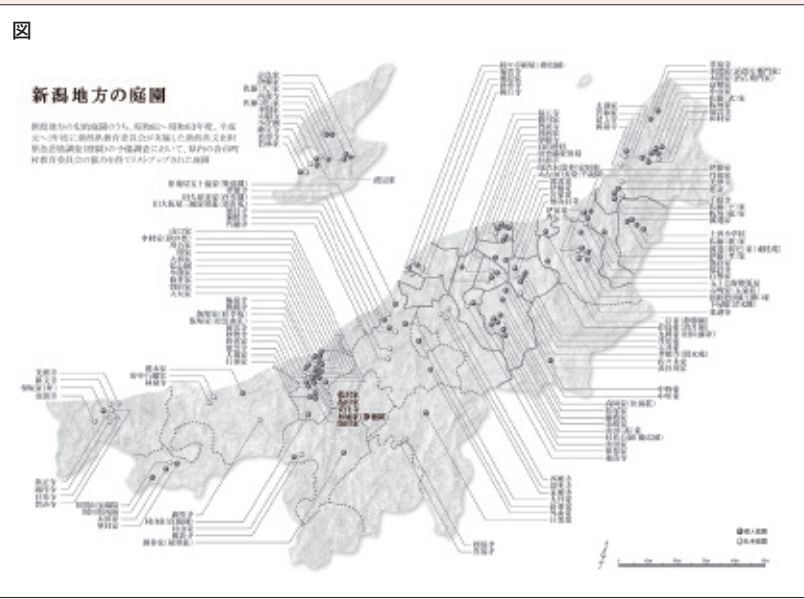


写真1. 龍雲寺 庭園 (柏崎市黒滝)
庭一面、スギゴケで覆われていて、思わず深呼吸をしたくなるほど清涼感がある。斜面には須弥山の世界観を表現しているのか三尊石を中心に立石が多く、飛び石の打ち方に技巧がなく、素朴で、低木類は全体的に刈り込みで造形した典型的な雪国の庭である。



写真2. 石泉荘 庭園 (新発田市諏訪町)
広さ約1500坪の廻遊式庭園。庭園のほぼ中央を川幅約4メートルの新発田川が流れているなど全国的にみて貴重かつ珍しい作風の庭園であり、明治初期の優雅な料亭の風情を残している。庭園は平成23(2011)年、国登録記念物に登録された。*ただ今、工事のため閉館中です。お問い合わせは ☎ 0254 (21) 1128 まで。



写真3. 外山家 庭園 (長岡市小貫)
阪神電鉄初代社長などを務めた外山修造 (1842~1916) が京都から庭師を招いて造らせた本格的な庭園。水辺の風景や奥山の風景など見どころが多い。

して①面積が大きいこと、②水利用があること、③周りを木々で取り囲むこと、などが挙げられる。当時、庭園文化の中心は江戸(東京)というよりも京都であったため、建物の大半は日本の伝統様式の一つで、京都でよく見られる数寄屋造りや書院造りを参考にしたものだった。庭園の築造も庭石、石灯籠などの材料はもとより、庭師を京都方面から招聘するなど、京の雅な文化に強いあこがれを持つていた。そのため、豪農の庭園は自然を取り込むというよりも石灯籠、飛石、蹲踞、垣などの景物、茶室などの添え物による豪華趣味的な庭園だった。

では、明治期に入ると近代商・工業などの事業を中心に高所得者層らが所有する屋敷、別宅、そして料亭など、京都の町屋形式とは少し異なる在来型住宅から独自に変化した建物に付設し、京都色から離れた中・小規模の庭園が多く造られた。

立地からみた庭園の特性

上越市、新発田市、中蒲原郡のほか北蒲原郡のほぼ全域に庭園がまとまっており、長岡市近郊でも外山家庭園をはじめ、住雲園、聚感園、楽山苑などの名園がある。北蒲原郡では清水園、伊藤家、二宮家など大規模な屋敷に付設して庭園が築かれ、京都方面から鞍馬石、貴船石、加茂川石、また紀州青石、伊予石、海老ヶ折石、赤玉

世界の中の新潟の庭園

新潟の庭園の素晴らしさを顕在化させたい。著名な庭園が多い京都や東京ほどの切れ味はないが、新潟は食をはじめとする地域資源と重なりやすい環境にある。これらの連携により我がまちの誇りと感じる事ができれば新潟の庭園に対する市民の考え方も変わってくる。日本庭園は残っていること

が最大の価値であり、その存在意義が社会的に認められることが重要。米国、欧州など諸外国で日本庭園の価値が理解されつつあるなか、国際的な交流に日本庭園は有効なツールと感じている。今年3月に設立した県内初の庭園文化と国際交流を推進する団体「にいがた庭園文化交流協会」では、国内外で人と庭園を結び付ける視点も含めて具体的な活動を行っている。

日本庭園の真実性

新潟には素晴らしい庭園が数多く残っている。歴史的・造形的に

みても質の高い庭園文化を築いてきた。少々、生真面目な作風だが、造り手も所有者もその時代その時代を一生懸命に生きてきた足跡をみる気がする。庭園の前に腰をおろせば、小鳥のさえずりが聞こえ、さわやかな風が頬を撫で、光が差し込み、庭の陰影を際立たせる。どんなに心を閉ざしていようと、どんなに悲しい思いがあろうと、これらの光景は心に沁み込んでくる静謐な時空間なのである。

今、世界では心を閉ざし、感動のカケラすら味わうことなく闇の世界をさまよっている人たちが大勢いる。こういう人たちと向き

合った、本当に「心が解き放たれた自然の世界」にこそ、これからの日本庭園の存在価値(真実性)があるように感じる。日本庭園の持つ思想性や美の世界で全てをやるわけではないが、少なくとも、このようなことに気づき、新しい時代の新しい日本庭園の価値と進化に期待したい。

* URL: <http://gcaenigata.org>
出典:「越後／新潟の庭園(地方の消えゆく庭園を守る)」／土沼隆雄／東京農大出版会(2014)
建設通信新聞日本造園学会賞受賞インタビュー(2015)
写真: 上山益男(日本写真家協会会員)

▽新潟市中央区在住